



『第31回 東京校歌祭』報告

東京校歌祭担当 木名瀬 伸博 (32期)

天気に恵まれた2023年12月3日(日)に「第31回東京校歌祭」が、初めて国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟内大ホールで開催されました。事前に参加者名簿の提出が義務づけられる運営に厳しい会場でしたが、参加団体は、都内の高校同窓会の18校。前回の27回大会(28回・29回はコロナのため中止。30回は非公式で開催し千歳は辞退)に比べ1校(戸山)減りました。

今回も本校の出番は早く12時50分からのステージでした。残念だったのは、芦花高校が時期が悪く参加が叶わなかったことでした。

校歌祭は、12時に開会式が始まり、ステージには各校のプラカードが並び、杉本会長の挨拶、清澤実行委員長の開会宣言がありました。続けて西高校のブラスバンドによる開会のファンファーレが厳かに響き、その後西の校歌・校友歌が披露されました。その後は各校の校歌が披露され、第三商業、石神井、竹早(第二高女)、千歳、両国、小松川、文京の順に各校が歌い前半を終えました。

休憩では恒例の全体合唱はなく、来賓の青春かながわ校歌祭会長山下東洋彦氏の挨拶だけでした。

後半ステージはブラスバンド伴奏の九段から始まり、新宿、武蔵丘、隅田川、江北、豊多摩、白鳳(第一高女)、第一商業、立川、そして最後がブラスバンド演奏での小山台で校歌の披露を終え、最後に全員で「仰げば尊し」を斉唱し校歌祭は終了しました。しかし今年は、会場に来てくれたお客様が少なく、やや盛り上がりには欠けました。

今年の千歳高校・誠之会は総勢11名で、「健児の歌、千歳高校校歌、雪の降る町を」を、優美に歌いました。指揮は今年も廣瀬泰文さん(32期)にお願いし、ピアノ伴奏も小鹿 紡さんをお願いしました。歌の練習ができませんでしたが、少人数での熱唱は大変好評でした。

校歌祭終了後は、インフルエンザ等の流行も懸念され、反省会(懇親会)もなく三々五々解散となりました。

今年度の東京校歌祭の舞台・進行の実行委員は千歳でとのことで、私が責任者となり皆様へのお世話が行き届かず申し訳ありませんでした。しかしお陰様で、舞台の進行は全く支障なく完了できました。参加いただいた皆様、大変お疲れさまでした。有り難うございました。

次回開催について

今年度の「第32回東京校歌祭」は、2024年10月27日(日)杉並公会堂で決まりました。より多くの皆様に参加していただくことを願っています。

